

令和 6 年 度
事業 報 告 書

社会福祉法人 ときわの杜
特別養護老人ホーム ときわの杜

令和6年度特別養護老人ホームときわの杜事業報告

<大規模修繕事業>

令和6年度の特別養護老人ホームときわの杜は、平成15年7月の施設改築以来21年が経過し、設備関係特に空調給湯設備の不調が頻発していることから大規模修繕により利用者の安心安全を確保することが喫緊の課題になっておりました。この折、政府の省エネ補助事業採択が決定し、設備更新工事に鋭意取り組みました。建設以来借入金返済を続けたため、十分な剰余金を蓄える余裕もなく、約4000万円の政府助成があるとはいえ1億3千万円余の支出にはためらいもありましたが、利用者の健康維持を考えた場合いつ故障しても不思議はない状況のため、事業執行に踏み切りました。工事は令和6年11月から令和7年3月までの4か月間に及び、期間中は厳冬期も含まれるため補助暖房機を多数使用しました。十分な暖房とはならず利用者にはご不快をおかけしましたが無事に工事完了しております。

<新型コロナ感染症の拡大と利用者減少>

一方、これに遡る7月以降体調不良者が続出し、ほぼ毎日救急搬送者が出る状況が続き、これが年末年始の新型コロナ感染症拡大につながって行きます。しばらくの間10名を超える入院者が続き、入所定員割れも10名を数えるに至り、10月時点で6千万円を超える赤字決算が予測されたため、やむなく70歳以上のパート職員約10名を年度末で雇止め（整理）する決断に至りました。同時に介護現場ではこのことがサービス低下につながるということがないよう業務全般の見直しをしました。また感染拡大を未然に抑えるため、効果的な空気清浄システムの配備検討を進めました。

<再生に向けて>

しかしながら、利用者低下につながった施設運営の見直しは急務であり、今後の立て直しに向けて全職員から提言を徴するSWOT環境影響分析を行い、今後5年間の運営方針「ときわの杜ビジョン2029」を策定しました。同プランは随時改定を重ね年度事業計画に反映されることになります。

<広報戦略の拡大>

利用者減の原因には施設業務サービスの明確なアピールポイントが希薄、またはなかったことと最新の施設パンフレットがない、ホームページ発信が少ないなど施設広報の不足が指摘されるため、新規法人ロゴ制定に合わせてプライドケア（利用者の個性嗜好を尊重敬愛する介護）を施設サービスにも採用する方針を定め、これに基づく新パンフレットを作成配布し、施設情報も若手の広報委員がホームページの毎月掲載に努めました。また SNS による動画配信の準備を進めました。

<電子決済による業務効率化>

施設業務のデジタル化はすでに専用ソフトを導入して行われていましたが、決済を電子化することで業務効率化とペーパーレス化を進めました。押印は他業務でも残っていますがこの拡大について検討を進めました。